

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0911
東京都 八王子市打越町 334-2-5-201
花輪 宗命 TEL : 090-2213-0257
Fax:042-636-6157
E-mail : hanamate@rk9.so-net.ne.jp

2023年 3月

The Service Club of The YMCA

第333号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	花輪 宗命	国際会長 ウルリック・ラウリドセン (デンマーク)
副会長	茂木 稔	主題 「輝かそう、あなたの光を」
書記	久保田 貞視	スローガン 「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
会計	長谷川 あや子	アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen 主題:「新しい時代とともに エlegantに変化を」 スローガン「今すぐ実行を」
直前会長	山本 英次	東日本区理事 佐藤 重良 (甲府 21) 主題:「未来へ向けて今すぐ行動しよう」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
ブリテン	山本 英次 茂木 稔 大久保 重子	あずさ部部長 後藤 明久 (富士五湖) 主題「ワイズへの参加と交流を楽しもう」 八王子ワイズ会長 花輪 宗命 主題「感謝と報恩奉仕」

3月例会プログラム

(担当:A班:菅野・小口・佐藤・長谷川)
 日時:3月11日(土)18:00~20:00
 会場:八王子市北野事務所2階大会議室
 受付:菅野メン・小口メン
 司会:長谷川メン
 開会点鐘 花輪会長
 ワイズソング 一同
 ワイズの信条 一同
 ゲスト・ビジターの紹介 花輪会長
 聖書朗読・食前の感謝 小口メン
 会食
 卓話「次期クラブ会長・部役員ワークショップに参加して」
 次期会長 並木 真メン
 話し合い・・・クラブの次年度に向けて
 スマイル 佐藤メン
 ハッピーバースデー 花輪会長
 閉会点鐘 花輪会長

巻頭言

TOF=Time of Fast

2月の例会は「TOF 例会」ということで、司会の並木(信)メンより、開会にあたり「ロースター」に記載されている「TOF」の説明文が以下のように紹介されました。

TOF=Time of Fast は「断食の時」とも言われ、世界中の飢餓に苦しむ人々を支援するため、特定の月のクラブ例会の食事を抜いて、その分の金額を献金として国際協会に送り、国際協会はその集まった献金を年度に定められた支援目標に捧げます。この活動を「TOF」として行っています。国際協会は、この献金を、世界 YMCA 同盟を通じて、困難な生活を強いられている人々を支援する活動をしているYMCAなどの働きに捧げています。

先月の例会ポイント (2月)

在籍	12名	切手	0g
		22~23年度	計 1698g
メン	12名	現金	0円
メイキャップ	0名	累計	0円
出席率	100%	スマイル	14,100円
メネット	2名	累計	79,150円
ゲスト	3名	オークション	0円
ビジター	2名	累計	0円
ひつじぐも	4名		

今月の聖句(2023年3月)

私があなたがたを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそあなたがたにも平安があるのだから。

(旧約聖書エレミヤ書 29:7)

また、今日の例会は「TOF」ではありませんが、コンビニのおにぎりを2個ずつ例会の食事として提供いたします。

あずさ部第2回「厄除け評議会」

長谷川あや子

2月11日（土）あずさ部第2回評議会が甲府の「談炉館」で行われました。前日は八王子も甲府も雪となり足元が心配でしたが、甲府21クラブの野々垣さんのご好意で、菰淵さんや原さん達と一緒に車で談炉館に向かいました。2月13～14日は厄除け地蔵祭りで毎年10万人も集まるそうです。そのお祭りに因んだネーミングです。部大会以来、4カ月ぶりに皆さんにお会いしましたが、なんとも嬉しく懐かしい気がいたしました。開会点鐘から部長挨拶、東日本区理事挨拶の後、議案審議に入りました。

- ・第一号議案「2023-24年度部役員承認の件」
 - ・第二号議案「2024-25年度部長推薦の件」
 - ・第三号議案「2022-23年度CS助成金配分承認の件」
- のすべてが承認されました。

2023-24年度は長野クラブの森本俊子さんが部長ですが、私は部書記として、並木真さんはクラブ会長として承認されました。今年度前半が終わったばかりですが、もう次年度の準備が始まっています。活動報告では八王



子クラブの報告は花輪会長の代わりに久保田書記が簡潔に話され、ユース事業報告ではIYCや第34回ユースボランティア・フォーラムの写真入りの報告を小口主査から受けました。その後5分の休憩をはさみ、内藤いづみ氏とチャンティ氏による音楽とお話「チャンティといづみのいのちの輝きにのせて」がありました。内藤いづみさんは甲府クラブピーターさんのメネットですが、在宅ホスピスケアの草分けとして知られ、ふじ内科クリニックの院長先生です。

軽妙で心温まるお話とシンガーソングライターのチャンティ(インドネシア語で可愛い)氏の弾き語りの素敵なお話とときでした。評議会ではこんな楽しい(卓話)なんて初めてではないでしょうか。懇親会では5～6人がけのテー

ブルで美味しいお弁当を頂きながら大いにお話も弾きました。会場では「国際協力募金」も行われました。参加クラブの紹介、アピールの後、YMCAの歌を一番だけ歌い閉会となりました。八王子からは久保田さん、小口さん、長谷川が参加しました。

東京多摩みなみ・卓話を聞いて 「侵攻1年・日本に避難するウクライナ人は今」

小口多津子

まもなく、ウクライナがロシアに侵攻されて1年になります。気をもみながら日々を過ごす中で、東京多摩みなみクラブの2月例会卓話を聞きました。日本YMCA同盟

理事をされている横山由利亜さんの卓話です。以前、朝日新聞朝刊にもご活躍が報道



されていて、いつか横山さんのお話を聞きたいと思っていました。久保田さん、私はZOOMで参加しましたが、並木真さんは会場におられました。

日本YMCA同盟は、ヨーロッパYMCAと連携して、全国のYMCAやワイズメンズクラブからの募金も加えて、日本に避難されている180名余のウクライナ人の避難の支援をされ、さらには東京都と協定を結んで、東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業を担当していて、その先端でご活躍されているのが横山氏です。私はニュースの映像で、一人の避難者のご婦人がポーランド経由でビザを取り、ウクライナからやっとの思いで日本にたどりつき、在日の娘を頼って、空港での再会シーンを見ました、そのそばに付き添っておられた横山さんには、最初の仕事だったということでした。それから日ごとに増えていく来日の避難者への対応の様子を話され、この1年近いうちに、避難者の方々のありよう、生活が進むにつれて、避難者の心の変化が変わっていく様子を知りました。その方々の変化の様子を時系列的に話され、聞いているうちにあまりにも課題の多さ、人手の足りなさ、

もどかしさなどが伝わってきました。

避難された方々へは、3月の最初は、手掛かりを求めて国内の知り合いにたどり着く方々の手続き、住宅の案内、まず手続きの一つ一つの対応などが第一段階、次にはその方々の生活スタートアップ支援になって、保育園探し、日本語支援など交流の場、を紹介。7月になって都営住宅へ入った方々を訪問して、要望と共に支援先紹介、仕事先の相談、体調不良になった方の病院同行、心のケア。さらに12月からは、長期滞在者の定住支援、就業、教育相談、また逆に避難者が自分だけと、罪悪感で悩む心のケアへと多岐にわたる対応が続いています。避難者をもっと受け入れてと思う気持ちと、その後に進む多方面への対応への課題に直面されて、ただ使命感だけではどうにもならないものと思いました。勿論、活躍

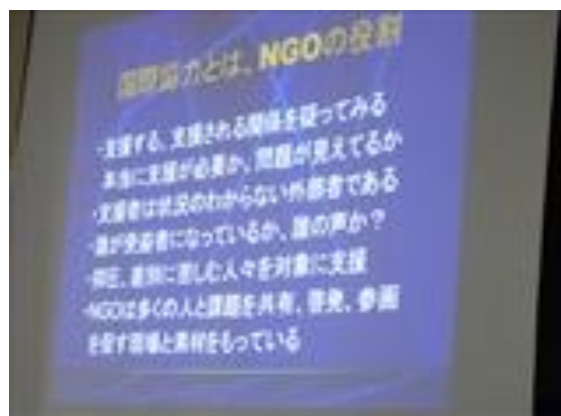


は大勢でされていても、それでも手に余る仕事内容でした。熱意あるお話の内容に私達ワイズの力が、これからは必要ではないのか、と真に迫ってきました。2月24日は1年目を迎えて、テレビにも取り上げられて放映されますが、また先日の日本YMCA同盟の通信にもありました、YMCA同盟がされてきたウクライナ避難者支援報告動画が、横山さんの解説でたいま YouTube で配信中です。

卓話「自然と共生するための国際協力とは」
特定非営利法人「地球の友と歩む会」
事務局長 米山 敏裕 氏
(中央大学YMCAOB会「白羊会」会長)



卓話をする米山氏



プロジェクターを使ってわかり易く



後輩のひつじぐもの参加者
(大山さん、関口くん、森脇くん、高木くん)



わくわくビレッジ便

担当主事 菅野 牧夫

2月の施設点検日を使ってビオトープのかいりぼりを実施しました。前回2020年の秋に行った時はボランティアの皆さんの力でガマやカヤを撤去したので大仕事でしたが、今回は重機を入れて作業を行いました。急遽作業が決定したので、自然環境に負担をかけない季節とまではいきませんでしたが、重機の力は偉大で、まさに根こそぎ植物が引き抜かれました。作業前日に捕獲した生き物を水槽に避難させましたが、オニヤンマのヤゴ、ヌマエビ、カワムツなどが確認されました。カエルの卵もたくさん産まれていたのですが、避難は間に合いませんでした。今年の春はビオトープでおたまじゃくしを見つけることが困難になるかもしれません・・・

2月、3月は、年度末の余っている予算を、施設のリニューアルにまわしています。そのため毎年この季節はいろいろな工事が行われます。今年度は宿泊室の窓枠の塗装や、ベッドルームのマットレスの交換、その他貸出備品の買い替えなどが行われました。昨年度は客室の壁紙の張替え、その前の年はエアコンの入れ替え等、毎年少しづつリニューアルを行って、お客様に飽きられない、清潔な施設と印象をもってもらえるように、努力を進めています。

YMCAのキャンプ場は、わくわくビレッジほど潤沢に予算がないので、毎年リニューアルをしていく事は厳しいですが、わくわくビレッジはリニューアルにかかる予算を持っているので幸せです。お客様を扱う施設として、施設がいつもきれいな状態を保つことは大切です。お客様が「きれいだな、また使いたいな」と思って、次に利用した時に「前回利用した時より薄汚れているな」と思ってしまったり、次の利用が無くなってしまいます。

施設をリニューアルして春のお客様を受け入れていきますが、使った人たちがどんな感想を持つのか楽しみです。



ひつじぐも便

ひつじぐも2年 渡部航也

2月25日に池袋駅周辺にて、中央大学ボランティアセンター公認学生団体「りこボラ！」さんと、立教大学公認団体のボランティアサークルYMCAさんと、私たち「国際ボランティアサークル ひつじぐも」の3団体合同で清掃活動を実施しました。昨年10月以来の活動となりましたが、3団体合わせて23人が参加しました。

ルートは、東京芸術劇場前から豊島清掃事務所まで4つの班に分れて他団体と交流しながら活動に取り組みました。私の班が担当した地域では、個数としてはタバコの吸い殻が最も多く、その他にも梱包材、お酒やコーヒ一缶、中身が残っているペットボトルなども多く捨てられていました。そのゴミは特に街路樹の下や側溝の蓋周辺に集中していました。当日は冷たい風が吹いており、寒さが残る中での活動でしたが設定した時間内でゴミ袋が重いと感ずるほどに収集することができました。

参加された「りこボラ！」さんからは、『共通の目的を持った人達と清掃活動というボランティア活動ができて楽しかった。また機会があればコラボしたい！』という感想をいただき、立教大学YMCAさんからも『お話しできた方もできなかった方もいましたが、また一緒に活動できたらうれしいです。またこのような機会が与えられる日を楽しみにしております！』と次のコラボ活動に繋がるありがたい感想をいただきました。

普段は『ひつじぐも』で活動することが中心ですが、今回の様に他大学、他団体の方々との共通の目的を持って活動することはとても有意義な時間になりました。ボランティア活動はお金を稼ぐ様な一方的な利益が目的ではありませんが、参加者との交流を通して自分とは異なる価値観や活動に対する姿勢にも触れる貴重な機会であると考えます。これからの学生生活や残り少ない休業期間を自己の成長やサークル活動の向上に繋げていきたいと思ひます。



今月の聖句に寄せて (2023年3月)

ロシアがウクライナへの軍事進攻をはじめてから1年が過ぎました。瞬く間に過ぎた1年であったようにも思え、また逆に果てしなく長い時を過ごしているようにも思えます。多くのひとにとって、この一年ほど「平和」を言葉にしたこともなかったのではないかと、思えるほどに、「平和」を願ったこともないように思います。

「平和」はどのようにしたらもたらされるのでしょうか。今のように、軍事的侵攻によって脅かされている「平和」の現実からは、他国からの侵略のないこと。まず、軍事的な勝利によってもたらされる「平和」を考えざるを得ないようにも思えます。

そして、軍事的に侵攻してきた敵を追い払った結果として「平和」を達成するのであれば、これから、平和を保つためには、攻め込まれないようにすればよい、ということになるのでしょうか。攻め込まれないようにするためには、まずは強い軍事力を保持することがなにより大切、という考え方があります。私たちの社会で今、この考え方は多くの人の支持を得ようとしているように思えます。しかし、この方法は失敗してきた歴史があることを忘れてはならないでしょう。では、どうすれば。

エレミヤ書には、すでに捕虜になっている人々に対して、自分たちの国を滅ぼして、自分たちを捕虜にした人々の平和と繁栄を求めなさい、との言葉があります。

この言葉の裏に、新しい「平和」の在り方の鍵になる考え方があるのではないかと、いう人がいます。

解説：並木信一



東京YMCA 近況報告 3月

* 1月24日～25日に「東日本YMCAスタッフ研修会」が開催され、東日本の各YMCAからスタッフ約30名が参加した（東京YMCAからは2名）。差別、人権、多様性をテーマに、話を聞き、学びを深めた。横浜YMCA三浦グローバルエコビレッジに宿泊し、各YMCA総主事からのリレートークもあり、良い交流の機会となった。

◆ 1月28日、「第17回子育て講演会」がオンラインで開催され、講師の大豆生田啓友氏（玉川大学教育学部教授）よりお話しを伺った。子育て中の保護者を中心に約200名が参加し、好評であった。

◆ いじめのない世界を目指すキャンペーン「ピンクシャツデー」が今年は2月22日に設定され、全国のYMCAで様々な取り組みがなされた。

◆ 2月23日にはじめての試みとして、「東京YMCA全体職員研修会」がオンラインで開催され、約300名の職員が参加した。法人や部署を越えて東京YMCAの働きが共有された。

◆ 今後の主な行事日程

* 「職員就業礼拝」 4月1日（オンライン）

説教：古賀博牧師（日本基督教団早稲田教会）

* 「第32回チャリティーゴルフ大会」 4月13日
会場：PGM総成ゴルフクラブ

* 「東日本地区YMCA役員研修会」 4月15日
オンライン

講師：寺島実郎氏（一般財団法人日本総合研究所
会長／多摩大学学長）

* 「第20回会員大会」 5月27日 会場：山手センター（予定）

◆ 他団体の動き

* 東京グリーンワイズメンズクラブ創立50周年記念例会 3月21日 会場：KKR ホテル東京

(報告)

2023年2月第一例会報告(TOF 例会)

(担当 C 班 並木信、茂木、大久保、山本)

日時:2月25日(土)18:00~20:00

会場:北野事務所2階大会議室

1. 卓話「自然と共生するための国際協力とは」

NPO 法人「地球の友と歩む会」事務局長

・白羊会会長 米山敏裕 氏

概要:米山氏は大学卒業後、東京YMCAに入職した後NGO 関係に転職し26年、現在、「地球の友と歩む会(LIFE)」に拘わり、インドとインドネシアでの支援活動に従事。LIFEの活動方針は①水・緑・人で国際協力②現地の問題は現地に住む人が解決する③地球の友として、いま私ができること。具体的活動として、インドでは井戸掘り、飲料水の確保、農業支援、植林、女性の技能習得、インドネシアではマングローブの植林、有機野菜の栽培、飲料水の確保などの支援などを進めている。パワーポイントを使った報告では現地で生活様式、教育、慣習、宗教制度など多面的なもので、活動推進のために寄付も要請された。ひつじくも学生からの熱心な質問もあった。

2. YMCA 報告

- ・東京YMCAとして品川区御殿山でのプールの運営を委嘱され、会員を募集し、定員の半数が集まっている。
- ・2月23日に東京YMCAの全職員を対象にリモートでの会議を開催し、300人が参加、現在バングラデッシュに出張している職員も現地から参加した。

3. ユース担当

- ・3月18日20:00からひつじくも学生の追い出しコンパがあり、ワイズから5人参加する予定。
- ・5月27日(土)高尾わくわくビレッジで草刈とひつじくも入会者歓迎会を実施する予定。

4. ハッピーバースデーは米山さんと久保田メネットが該当。

5. スマイルは14,100円。

(出席者)

(クラブ会員)長谷川、小口、佐藤、菅野、花輪、望月、久保田メン・メネット、並木真、茂木、大久保、山本、並木メン・メネット(中大ひつじくも)関口遼、大山希、森脇啓心、高木義仁(ゲスト)米山敏裕、向井克彦(元会員)酢屋義元、ビジター(武蔵野多摩)大輪匡司、麻生由美子



ハッピーバースデー 久保田メネット、米山敏裕氏

今月の卓話者紹介

並木 真さん

八王子市在住 52歳。
種苗会社勤務。

2019年7月にクラブ入会。
2023年7月からクラブ会長に
就任予定

3月のお誕生の皆さん

おめでとうございます

茂木 稔さん 3月11日

菅野 牧夫さん 3月15日

長谷川あや子さん 3月19日

並木 雍子さん 3月19日

茂木 洋子さん 3月23日